

茗溪会公開講座と展示

筑波大学では湯島聖堂本尊「孔子像」の復元研究を 10 年余にわたり行い、その成果として江戸初期に開廟した当時の姿かたちを取り戻すこととなりました。

テーマ

「科学研究費による研究成果公開—嘉納治五郎と孔子祭典—」

—湯島聖堂本尊孔子像の彩色復元資料を中心に—

展示

会場:茗溪会館 5 階ラウンジ

入場:無料

会期:8 月 22 日(月)~8 月 28 日(日)10:00~16:00

(入場:無料、8 月 22 日は 13:00~公開、28 日は 15:00 まで)

公開講座

会場:茗溪会館 5 階会議室・ラウンジ

日時:8 月 27 日(土)13:00~15:30

入場:無料



湯島聖堂本尊孔子像(彩色像)

公開講座は、復元研究を担当した筑波大学教員による講演・解説会を予定しています。

1「嘉納治五郎と明治の徳教」—高等師範学校長が復活させた孔子祭について—

講師:筑波大学 教授 守屋正彦

欧米視察を行った岩倉具視をはじめ、明治の政財界人また教育者は近代日本における道徳の在り方を模索し、斯文学会を創立した。孔子の学問にもとづいた思想の涵養を目指し、国家の基礎を固めようと谷干城らの参加を得て明治 13 年に発会した。その象徴である孔子祭典を行う孔子祭典会が明治 40 年に発足。谷干城ら元老の人々の期待を背負い、嘉納治五郎が祭典委員長として陣頭指揮を執ったのである。高等師範学校を前身とする筑波大学ならではの復元研究、嘉納治五郎と日本の孔子祭典の魅力に迫ります。

2「湯島聖堂「孔子像」復元チームが語る、草創期の彩色像の再現」

講師:筑波大学 教授 柴田良貴(彫塑)

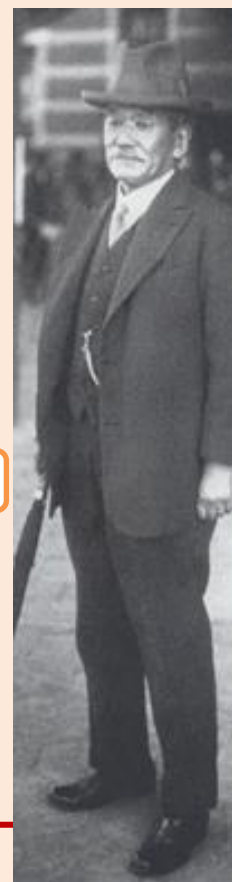
” 教授 藤田志朗(日本画)

” 准教授 木村 浩(コンピュータ・グラフィックス)

” 准教授 程塚敏明(日本画)

江戸草創期に林羅山は孔子の学問所を上野忍ヶ丘(現在の上野公園)に構える。その時に、学問の象徴である孔子像が聖堂に安置された。その後徳川幕府は学問の殿堂として、今の御茶ノ水駅北側の地に湯島聖堂を建設し、孔子像を移した。以来、幕府教学の象徴として孔子像は近代に至ったが、関東大震災にて焼失。孔子像の復活は期待され、筑波大学の復元研究が長い時を経て、林羅山の時代の孔子像を復元した。担当された先生方による復元の詳細、苦労話を語ります。

嘉納治五郎先生



公開講座の申込み (展示は予約不要です)

日時:8 月 27 日(土)13:00~15:30

会場:茗溪会館(東京メトロ丸の内線「茗荷谷」駅下車徒歩3分)

参加費:無料 (先着定員 30 名)

申込み:電話、FAX、メールなどでお早めにお願ひします。

申し込み先 一般社団法人 茗溪会 事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-5-23

電話 03-3941-0136 FAX 03-3941-7674

eメール info@meikei.or.jp

茗溪会は筑波大学の同窓会を母体とする一般社団法人です。